

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その9

文：長谷沼 清吉^{せいきち}さん

慈善家 上田佐十郎義信^{うえだ さじゅうろう よしのぶ}の物語

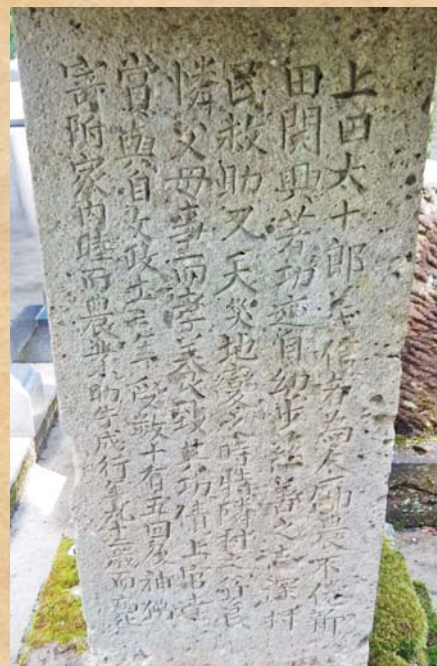
耶麻郡誌では慈善家として、喜多方^{うりういわこ}の瓜生岩子^{きとくとうこう}とともに井谷の上田佐十郎を紹介しています。佐十郎は奇特篤行の人であり、深く神仏を尊敬し、天保4年(1833)から明治26年(1893)までの60年間に施米101俵2斗6升・粃263俵・金125両1分2朱を近隣の村々の人に与え、また、道路の辻に掛けて施した草鞋^{わらじ}は12,500足に及んだといひます。これらの善行に対し、藩より7回賞され、明治に入っても県などから5回賞を受けています。

これだけの善行・施しがなぜできたのでしょうか。また、それだけの財をどのようにして得たのでしょうか。佐十郎は、新田開発や植林のほかに、炭焼き・紙漉^すき・中追馬^{なかおひ}など、年中休みなく家族と共に働いたのでしょう。そのためには、家族の和合なくしてはできません。佐十郎は、家内や村中の人と睦まじく祖父・両親に孝を尽くしたとあります。

昔はとにかく歩くしかありません。柴崎や橋屋から井谷を通り、風穴峠^{かぜあな}を越えて館原代官所^{たてのはら}などへの往来や、明治になり赤岩に小学校ができると、三河の子どもたちはここを歩いたのです。戊辰戦争のときも風穴峠付近で激戦になったといひます。佐十郎が施した12,500足の草鞋は多くの人々の履物として使われたことでしょう。

墓には太十郎と彫られています。これは、家督をゆずり隠居したからだと思われます。

(出典：耶麻郡誌・新郷村誌)



↑ ↓ 上田佐十郎義信の墓



編集後記

明けましておめでとうございませう。といひても、皆さんのお手元にこの広報紙が配布されるのは、おそらくまだ年末のころ。本年度から、お正月の団らんの中で広報紙を読んでもらえるよう、新年1月号を年内に配布するようになした。

町長、議長のごあいさつもそうなのですが、年男・年女の皆さんに新年の抱負を伺う「年男・年女インタビュー」では、まだ年も明けないうちから新年の抱負を考へてもらうという無理を毎年お願いしています。自分が頼まれたら、きつと「面倒だなあ」と思うに違いないのですが、そんなお願いにも快く応じてくださり、本当にありがとうございます。この広報紙は、本当に皆さんのおかげで成り立っているのだなとあらためて実感しています。

新年が、皆さんにとって素敵な一年になりますように。

謹賀新年 長谷川祐一